“統一医学のグローバルな展開”

～治療的ヒーリングの観点から

高知大学医学部臨床教授

医療法人社団真愛会　札幌ファミリークリニック　理事長　鈴木重裕

[はじめに]

従来からの東洋医学と西洋医学を和合する「統合医学・医療」は様々なところで多くの取り組みがなされている。特に日本や韓国では、西洋医学だけではなく東洋医学も習得し実践できるため、世界の中では先進的役割を担っていると言える。そしてさらに、近代的な医療を加えた「融合医学・医療」も注目されつつある。

しかし、これだけではすべての病気を完治することはできない。なぜか？その理由は、これらの医学・医療には人類堕落の視点、霊性の視点が欠如しているからである。

今、人類の抱えている病気の大部分は、蕩減復帰や霊性復活の問題として捉えることができる。 医学的にみると、その根源的な原因は、堕落以後の潜在意識に潜む「否定的な記憶（潜在記憶）」にある。この否定的な潜在記憶が人間の否定的な言動や行動を引き起こし、人間に備えられた崇高な価値を見失わせる要因になっているのである。

ここで「否定的な潜在記憶」について述べたいと思う。最近の多くのエピジェネティックスなDNA研究によると、潜在記憶が人間の言動や行動に多大の影響を与えている、ということが明らかになってきた**(Tonegawa, 1987; Reik & Walter, 2001; Surani, 2001)**。うつ病や統合失調症、双極性感情障害を始めとする多くの精神疾患の発症にエピジェネティックスなDNAの変化が指摘されてきている **(Kato, 2009; Gregory et.al, 2009)**。つまり、先祖から伝わる後天的な心理的要素（ストレスや情動）などの膨大な量の否定的な「潜在記憶」が、DNAを通じて私たちの潜在意識の中に存在しており、その影響は確実に世代を越えて受け継がれているのである **(Suzuki, 2009)**。

従って、あらゆる病気を根源的な観点から医学的に解決するためには、この「否定的な潜在記憶」を解放し消去することが重要であり、その治療的プロセスはヒーリング（癒し）によってなされることがわかっている。

今回は、真のヒーリング（癒し）について、そして統一医学のグローバルな展開の第一歩となるブラジル一心病院/医療スパ実現についての意義を、治療的ヒーリングの観点から考察し、特に、医療スパの目指す具体的な内容についても提示してみたいと思う。

Ⅰ．真のヒーリング（癒し）とは何か？

ヒーリング（癒し）はどのようにして起こるのであろうか？ヒーリングには「マグネティック・ヒーリング（生体磁気治療：手かざし療法）」と「スピリッチュアル・ヒーリング（祈りによるヒーリング）」の二つがある。ヒーリング・エネルギーの観点から言えば、前者の作用は肉身の肉体/エーテルレベルの調整に関わっている傾向があり、治療はヒーラーが患者に手を接近させる形で行われる（**Krieger, 1979; Burke, 1980**）。それに対して後者は、肉身の肉体/エーテルレベルで作用するだけではなく、霊人体のアストラルレベル、メンタルレベル、そしてさらに高次のコーザルレベルの機能障害をも調整する。その上、「スピリッチュアル・ヒーリング」は患者がそばにいなくても可能であり、ヒーラーと患者の間に膨大な距離の隔たりがあっても可能である。

ここで重要なポイントは、病気の究極的な原因がかなり高いエネルギーレベルに由来している場合、「マグネティック・ヒーリング」でも対症療法的に肉身の肉体/エーテルレベルに発現している病気の治療はできるが、長い目でみたときの治療効果は期待できないと言うことである。一方、「スピリッチュアル・ヒーリング」は病気の根治的な治療を目指しており、微細な身体やチャクラのような高次エネルギーレベルに働きかけることを目標としている。スピリッチュアル・ヒーラーは様々な周波数に対応できる電源のように、同時に数段階のレベルのエネルギーを患者に注入する。言い換えると、ほとんどのマグネティック・ヒーラーが物質的身体的レベルのみの治療を行っているのに対し、スピリッチュアル・ヒーラーは心と霊の多数のレベルにも同様に働きかけているのである **(Wallace & Henkin, 1978)**。清平での役事はこれに該当し、この内容は、否定的な潜在記憶を解放し潜在意識をクリーニングするという機序によって説明することができる **(Suzuki, 2009)**。

「スピリッチュアル・ヒーリング」についてさらに具体的に述べてみたいと思う。これは、祈りに満ちた瞑想的な状態にすることから始まり、「祈りのヒーリング」と言い換えることができるが、ここで言う「祈り」とは何であろうか。祈りの効果について、

今まで多くの研究 がなされてきた。そのポイントは次の二点に集約される。第一は、遠隔地においた有機体にも祈りによって生物学的変化が起こったという有無を言わせぬ証拠が存在すること。第二は 、祈りが働くという事実そのものが、私たち人間の本質について、そして「絶対者である神」との結びつきについて、極めて重要なことを示唆しているということである。しかし、祈りの効果は、最も優れた祈りによるヒーリング専門のヒーラーの手によっても、一般的にはせいぜい 20%の確率でしか成功しないという事実（清平役事での総合的・統一的に行われる霊性治療の改善率は約 77%であるが）はどう解釈すべきであろうか？ また、どんな問題を扱うかによって祈りの効果には差異が生じるのはなぜなのであろうか？ 仮に、人々の祈りが 100%の確率で叶えられたとしたら、想像を絶する大混乱が起きるに違いない。なぜなら、もし病気の治癒を願う祈りが叶えられるのなら、人間はほとんど誰も死ななくなってしまうからである。従って、 祈りには距離や時間を超えて作用する「非限局的」な性質があり、病むということ、あるいは癒されるということがどういうことなのかを正しく理解したとき、祈りは「〇〇になりますように」という即物的・目的限定的なものではなくなるのではないかと思われる。

次に、「祈り」を科学的な観点で捉えてみたいと思う。現代物理学の理論の一つに「ベルの定理」がある。これは、「量子の世界では、ひとたび接触を持った存在同士はその後どれだけ距離が隔たっても互いに瞬時に反応しあう。ただし、同定理に基づく無媒介の情報伝達は、その内容を事前に知ることができない。」という定理である。従って、この理論は、先に述べた ①距離や時間を超える祈りの非局在性 、②祈りのあるべき姿は目的限定的ではない、という二つの点と奇妙なほどぴったり合致することがわかる。もちろん、このことだけですべてを結論づけることはできないが、祈りが非局在的に働くのなら、これによって、祈りに携わる人間にも同じ非局在的性質が備わっている可能性があるということは示唆される。「祈り」には西洋の伝統的なモデルとして考えられる「祈り（狭義）」と東洋的なモデルとしての「祈りに満ちた心」の二種類に分けて考えることができるが、これは顕在意識と潜在意識の関係で捉えることができる。

「祈り（狭義）」には次の三つの特徴がある。第一は、何らかの種類の「エネルギー」が祈りの「対象」に送られるということ。第二は、神は外在し、祈りが働く媒介として不可欠な存在であること。第三は、その祈りは顕在意識から発生するということ。つま

り、祈りは「思考」され、「意図」されなければならず、いかなる形であれ意識的に表現されなければならないということである。

一方、「祈りに満ちた心」とは、祈りを、エネルギーというより「情報（もしくは記憶）」という表現で捉えることができる。よって、祈りの効果が現れるのは現在もしくは未来に限らず、すでに発生したように見える過去の事柄にも効果を及ぼす「時間差の祈り」も存在することになる。このことは、過去の産物である潜在記憶の解放が可能であることを示している。また、「祈りに満ちた心」は、顕在意識、潜在意識のどちらからでも発生し、必ずしも「思考」される必要はなく、ひたすら実感する世界であり「無意識の祈り」あるいは「夢の中での祈り」も起こり得る。これは「病気を叩き潰して欲しい」といった種類の祈りではなく、病を自然の一部として体験し、受け身になることなく受け入れる境地へと人間を導くものである。そこへ達した者は、病が消え去れば感謝するし、もし消え去らなくてもやはり感謝の心を持てるようになる。「祈りに満ちた心」によって癒された例として、池見らが報告した“がんが自然退縮した５症例”を挙げることができる **(Ikemi et. al, 1975)**。この報告によると、共通した顕著な特徴として、がんの診断を受けた後、憂うつや絶望感、気力の喪失、死への不安など、多くの患者に認められる典型的な心理状態をまったく見せていないことや、「診断が間違いであってほしい」と神に懇願し、治してくれたら〇〇のことをするといった、交渉じみた祈りもしていないこと、などがある。つまり、がんと「闘った」わけではなく、これは、神への新たな帰依と感謝の心であり、何が起ころうとも必ず神の意志は果たされるという信念に裏打ちされていたと言える。言い換えると、肉体の病は、いかに痛ましく耐えがたいものであっても、人間存在の全体の中では二義的なものでしかなく、真に崇高なる自己、すなわち個性真理体としての自己は肉体がいかなる病でいかに打ちのめされようと全く動ぜずにいられるのだ、と悟ることを意味する。

従って、ヒーリングとは、私たち人間が最も本質的なレベルにおいて、病気や死の魔手を完全に超えた「何ものにも侵されない」存在であるということを理解することだと言えるのである。

このとき、がんの根絶など特定の結果を乞い願う、顕在意識を中心とした性急で激しい「祈り（狭義）」の態度は、物事すべてを敬虔に受け入れる潜在意識を中心とした「祈りに満ちた心」の心的態度と明らかに異なる。しかし、この両者は全く無縁な関係なのだろうか？祈りによるヒーリングの治療的効果を最大限に引き出すためには何が必要

なのだろうか？それを解決するためのヒントは、潜在意識、脳、顕在意識の繋がりにある。つまり、狭義の祈りとしての顕在意識が、習慣と情動によって、「祈りに満ちた心」としての潜在意識にスムーズに刻み込まれるかどうかが鍵なのである。すなわち、潜在意識、脳、顕在意識が一体化すれば、「祈り（狭義）」と「祈りに満ちた心」が相補的関係になり、共鳴し合い、西洋と東洋の心情が和合・統一された「真の祈り」による「真のヒーリング」が実現されるであろう。しかし、それは決して容易なことではない。なぜだろうか？何がそれを妨げているのであろうか？その要因として、生活習慣や対人関係などを含む環境的側面や、性格、気質、体質などの遺伝的素因が関与していることも十分考えられる。しかし、そこに影響を及ぼしている根源的な原因が正に「否定的な潜在記憶」なのである。これが堕落性本性を誘発する根源にもなっており、カインの心情を反映していると言えるであろう。

従って、いかにして否定的な潜在記憶を消去・解放し、潜在意識をクリーニング（浄化）していくかが、祈りによる真のヒーリングを実感するための重要なポイントになる。

Ⅱ．ヒーリングの目的

それでは、人間は何のためにヒーリングを行うのであろうか。統一思想の観点からみると、真の愛を動機として創造目的を実現するためにヒーリングを行うのだとされている**(UT, 371)**。被造物にとって、創造目的とは全体目的と個体目的という二つの目的をともに遂行することである。全体目的とは、愛でもって家族、隣人、民族、人類に奉仕して、彼らを喜ばせようとすることであり、ひいては神に奉仕して神を喜ばせようとすることである。一方、個体目的とは、自己の利己的な欲望を満足させようとすることである。結局、この二つの目的が人間の生きる目的であり、そのために人間はヒーリングを行うのである。ここで、全体目的と個体目的において、全体目的が優先される。従って、人間は本来、自己を中心としてヒーリングを行うのではなく、互いに愛し合うために、つまり、神と人間が共鳴し、一つになり、愛し合うためにヒーリングを行うのである。これがヒーリングの「真の目的」なのである。

神は愛のパートナーを願われ、夫婦が一つになる、その位置を中心として神が顕現され人間と一つになる。そして、神の真の愛が顕現するその位置とは、夫婦の愛に、神の真の愛が直短距離を通って下りてきて、しかも神の真の愛と夫婦の愛は 90 度で出会う、

正にその一点なのである。まっすぐに直短距離を通って下りてくる神の真の愛に対して、90 度の角度で出会うためには、横的な夫婦の愛は水平の愛でなければならず、それは正に、否定的な潜在記憶がすべて解放され、潜在意識がクリーニングされた、神から祝福された夫婦の愛以外にはあり得ない。つまり、夫婦において、内的には性相的な真の愛と、外的には生殖器を中心とする形状的な絶対性が、神の真の愛と一体となったとき、心も震え、体の細胞までも震えて、真の喜びと幸福が生まれ、絶対にして永遠の愛の絆が結ばれるのである。ここに神と人間が一体化して離れることのできない永遠の愛の基準が決定され、この一点で人間が完成し「真のヒーリング」に至るのである。言い換えると、「真のヒーリング」とは、相手を中心とする、いわゆる「他体自覚」を完成し神の心情世界と一つになることを意味する。その心情世界とは、「真の父母様億万歳」である。

人間には、自己中心の「自体自覚」を引き起こす傲慢な潜在記憶に満ち溢れている。どんなに完璧に生きたと思っても「私」自身の努力だけでは神の前に行くことはできない。なぜなら、潜在意識の中には、人間ではないサタンとの因縁によって生じたあまりにも多くの否定的な潜在記憶が存在するため、「私」の努力だけでは原罪はもちろん、すべての罪を償うことができないからである。「私」は罪人であるという現実を知ることが必要であり、自分を罪人と認めたとき、自己への執着から解放される。そしてそんな罪人のために、神の最も大切な息子、神の二性性相から出てきた真の父母様を死の道、蕩減の道に送られた理由は、このような私たち罪人を生かすためだったのである。私たちにとって、それは恩寵でしかない。神はあらゆる栄光を私たちのために犠牲になられておられることを知ったときに、神の愛の偉大さを悟ることができる。これが愛の振動を生み出す。従って、「真の父母様億万歳」を繰り返していく振動は、否定的な潜在記憶を解放し、私たちの細胞から体、心、心情、霊魂に至るまでその振動を変えることになり、このことが神の心情世界を体恤することに繋がっていくのである。以上の内容を Rev. H. Moon (2011) は次の言葉で集約している。「『真の父母様億万歳』は真なる孝心、真なる対象の愛であり、私のために死んで死んでまた死んだ父母に、愛と感謝と孝心、栄光をお返ししたいと思うことが、この言葉にすべて含まれています。それが心情世界なのです」。これこそが統一医学の目指す真の癒された心情世界なのだと思われる。綺麗な動機と心情で気を集めて、真の父母様にその気を送るなら、神が喜びを感じられ、天福を与えてくださる、という原理を悟り、実践することが重要だと思われる。人類が

堕落しなかったはずの創造本然の世界に復帰すること、これこそが真のヒーリング（癒し）と言えるであろう。

Ⅲ. ブラジル・パンタナールにおける病院/医療スパ実現の意義

この点において、ブラジル・パンタナールはすでに神によって準備されていた。パンタナールは、ユネスコの世界自然遺産にも登録されており、ここには今も神が作られた創造物の原型がそのまま残っているからである(自叙伝 p.311)。きれいな空気、透き通る水、そして世界一の「気」がパンタナールに満ちている。地上で最も豊かな野生の世界・・・、地球上で最も濃密な大気に溢れる湿原地帯・・・ 、太陽が輝きだすと眠っていたエネルギーが一気に吹き出す・・・、躍動する生命感に満ち溢れ、自然の中にいるだけでも「気」の流れが良くなり、病気の根源的原因である潜在記憶が解放され、潜在意識がクリーニングされる・・・、つまり、人間の霊性を浄化するのに世界で最も適した地域・・・それが、パンタナールなのである。 この環境を最大限に生かし、人類の蕩減を復帰し、霊性を復活させるような真のヒーリングの場としての役割を、ブラジル一心病院“医療スパ”は目指している。

それでは、統一医学のグローバルな展開の拠点として、なぜパンタナールが重要なのであろうか？その理由は、この地が人類の蕩減復帰、霊性の根源的な問題に深く関わっているからである。統一医学は、人類の健康に関する根源的な問題をすべて解決する医学・医療である以上、この問題こそ最重要テーマとして取り組まなければならない。摂理的な観点からみると、真のお父様がサタンを自然屈服させ本然の天使長の位置に復帰させるために最前線で凄まじい激闘をされていかれたのが正にこのパンタナールであった。ナビレキをはじめとしてジャルジン、サロブラの聖地は真のお父様が神と人類のためにサタンと戦って勝利された血と汗と涙の激戦の地だったのである。

細谷レポート**(2010)** によると、2000 年 11 月 30 日にはブラジル・パンタナールにある“原初聖地、根源聖地、勝利聖地”（ホテルアメリカーナ）において、“南米摂理の勝利及び環太平洋摂理時代出発の宣言”をされた。同年 12 月 1 日には“神様王権即位式のための宣布式“がなされ、同年 12 月 3 日にはウルグアイのプンタデル・エステにて“楽園、地獄撤廃と天国入籍の日”を宣布されたのである。さらには、天一国の独立宣言文として例えられる “霊界の５大宗教代表の決意文採択と宣布式”が同年 12 月

25 日になされた。このようにしてパンタナール・ジャルジン摂理の勝利の基台の上で2001 年 1 月 13 日の神様王権即位式に向かったのであり、神様の王権復帰を可能にしたお父様のジャルジン路程は神様王権即位式以後の天一国摂理の根となっている。

以上のことから、パンタナール・ジャルジン摂理は、環太平洋摂理と連結しており、人類を根源的な観点から蕩減復帰し霊性を復活させる役割を担う統一医学のグローバルな展開における最初の一歩として、ブラジル・パンタナールが最も重要であると認識せざるを得ないのである。

A. 医療スパの設備について

＊パンタナールをイメージした美しい外観　～観光ツーリズムと連携

＊最高級ホテルとしての設備を完備する

フロント、VIP 客室、高級レストラン、温水プール、庭園（中庭）、

談話室、店舗　(コンビニエンス・ストア、各種代理店)など

＊集会所（100 人規模のコンサートホール）～詳細は医療プログラム参照

＊カウンセリング・ルーム（個人プログラム作成、運動、食事指導、メンタル管理など）

＊治療棟；各種治療室（各セラピストを配備）　～詳細は医療プログラム参照

B. 医療スパに導入する医療プログラムについて

＊施設内 BGM として“真の父母様御万歳”を取り入れる～天福宮と連結

～「潜在意識のクリーニング＆ヒーリング」と「理想夫婦の完成」

① ハワイの伝承ヒーリング“ﾎｰｵﾎﾟﾉﾎﾟﾉ（SITH)”を原理的にバージョンアップした HFTH 療法(簡易型認知行動療法としての取り組み)の導入（ワークショップの開催）

＊癒しと治療のためのセミナー教育、牧会カウンセリング、瞑想、ヨガ

② 集会所（100 人規模のコンサートホール）

＊礼拝、真の健康セミナー、夫婦セミナー、音楽、文化・芸術表現 の場

③ アロマ/オイル・マッサージ　～夫婦での愛の癒し、エステ美容（愛と美の創出）

④ カラー・ヒーリング/フラワー・エッセンス /アニマル・セラピー（乗馬など）

⑤ 東洋医学的治療　～ハッピーヘルス、鍼灸、薬草療法(漢方/韓方医学を含む)

⑥ 運動療法、食事療法　～温水プール、サプリメント（水素、酵素など）指導

⑦ 温泉、岩盤浴

⑧ その他　（音響免疫療法、ホメオパシーなど各種治療法を常に検討する ）

＊本然のアダムとエバが夫婦として神様の愛と癒しを体験できるような理想的な医療スパを目指している。3 時間（日帰り）、7 日間、21 日間、40 日間コースを設定予定。

Ⅳ. 統一医学のグローバルな展開へ向けて

「統一医学」が「真の愛」を中心とする、科学的理論やエビデンスに基づいた最終的な真の医学であるということを、今後証明していくことが極めて重要だと思われる。そのためにも、統一医学・医療を実践するための病院/医療スパが必須であり、さらに、医学教育・研究機関も必要になる。少なくとも研究所付属病院として研究を行うこと、特にブラジル一心病院/医療スパにおいては、南米特有の薬草研究などができる体制を作ることが重要であり、将来的には、統一医学の大学（教育・研究機関）を設立し、その医学部付属病院として機能することができるような設計上の準備も必要である。

また現地日本人会には、ブラジル国会議員をはじめ、多くの日系医師が所属しており、このブラジル一心病院/医療スパ・プロジェクトに熱いまなざしが注がれている。日系人は現地で病院を経営している医療関係者や弁護士なども多いため、今後の協力関係を強固にすることも極めて重要であると考えられる。

統一医学・医療の実践的な面においては、医学の究極的な理念を象徴している「身心診癒統一務」というみ言に基づき、今まで、一心病院、清心国際病院がその役割を担い、

多くの実績をあげて来た。例えば、一心病院の「一心奉仕」という医療にとって最も崇高な理念をもって行なわれる海外医療奉仕、あるいは先日の東日本大震災のような災害を始めとする様々な奉仕活動の実績がある。また清心国際病院では、霊性治療を中核に据え、さらに最新の西洋医学と、韓方医学を中心とした東洋医学を和合・統一した治療は国際病院として天宙基準の医療を展開している。それらの素晴らしい基盤の上に設立される、統一医学のグローバルな展開としてのパンタナール（ジャルジン）・プロジェクトにおけるブラジル一心病院は、現地での救急医療や恵まれない人々にも良質な医療を提供する救世主になるだけではなく、まさに、アダム、エバ以降の、地獄の底から堕落世界すべてを復帰し、真のヒーリング（癒し）を実現する、人類史上類を見ない究極的な病院になるであろう。

さらに、この病院が清心国際病院、一心病院と連結し一体となれば、医学・医療を通して地球規模で全世界を一つに繋ぐことができ、全人類を完全復活させる象徴的存在になると思われる。ジャルジン・プロジェクトを成し遂げて、神様、真のご父母様を医学・医療の分野を通して証していくこと、これが医療従事者の使命だと思われる。

[最後に]

否定的な潜在記憶によって引き起こされる否定的な思いや感情をいかに扱っていくか、先祖由来の心の傷をいかに癒して治療していくのか、これらの蕩減復帰、霊的問題の解決なくして真の健康はあり得ない。そして、潜在記憶の解放に際して最も重要な究極の情動とは、それが正に「真の愛」であり、それを医学・医療において実践していく分野が「統一医学・医療」であると思われる。そのモデルとしてのブラジル一心病院/医療スパであり、それを世界すべての国々に展開し、“真の父母様御万歳”が全世界に広がることを願ってやまないのである。　　（ご清聴ありがとうございました。）

References

Burke, G. (1980). Magnetic Therapy: Healing in Your Hands. Oklahoma City, OK: Saint George Press.

Hosoya, T. (2010). 「なぜ真の父母様はジャルジンパンタナールにこられたのか」. 報告書：**2010. 11.1.**

Gregory SG. et al. (2009). BMC Medicine. 7:62.

Ikemi et.al. (1975). Psychosomatic Consideration on Cancer Patients Who Have Made a Narrow Escape from Death. Dynamic Psychiatry 31. 77-92.

Kato T. (2009). Epigenomics in psychiatry. Neuropsychobiology, 60, 2-4.

Krieger, D. (1979). The Therapeutic Touch: How to Use Your Hands to Help or to Heal. Englewood Cliffs, NJ: Prentice-Hall, Inc.

Moon, H. (2011). 心情世界は「真の父母様億万歳」**.**本郷人. 天基２年天歴２

Reik, W. & Walter, J. (2001). Genomic Imprinting: Parental Influence on the Genome. Nature Reviews Genetics 2: 21+.

Surani, MA. (2001). Reprogramming of genome function through epigenetic inheritance. Nature 414: 122+.

Suzuki, S. (2009). The Principles of Medicine: Establishment and Development of Unification Medical Science. Unification Thought Institute.(「医学原論」光言社**)**

Tonegawa, S. (1987). Somatic Generation of Immune Diversity. Nobel lecture, December 8.

Unification Thought Institute. (2005). New Essentials of Unification Thought; Head-Wing Thought. Tokyo: UTI-JAPAN.

Wallace, A. & Henkin, B. (1978). The Psychic Healing Book. New York: Dell Publishing Co.